

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

マチ類

アオダイ *Paracaesio caerulea*

ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii*

オオヒメ *Pristipomoides filamentosus*

ハマダイ *Etelis coruscans*

系群名 奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島

担当水研 西海区水産研究所



写真はアオダイ

生物学的特性

寿命: 不明

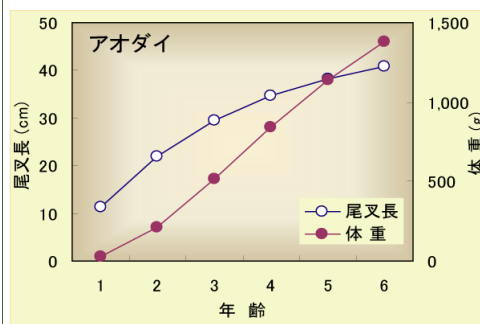
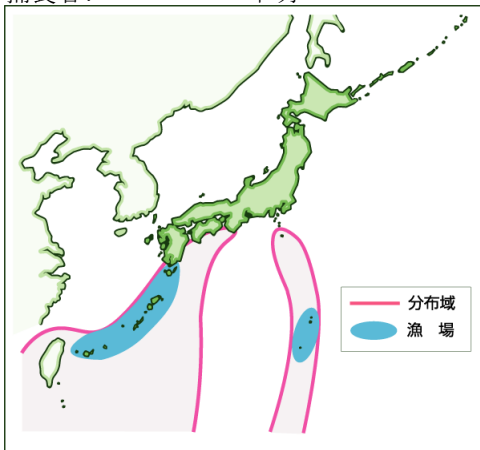
成熟開始年齢: アオダイは4歳、ヒメダイは不明、オオヒメは不明、ハマダイは12歳

産卵期・産卵場: 4種とも産卵期は4～8月、産卵場は不明

索餌期・索餌場: 不明

食性: アオダイは大型の動物性プランクトン(サルパなど)、ヒメダイとオオヒメは魚類やヒカリボヤなど、ハマダイはイカや魚類

捕食者: 不明

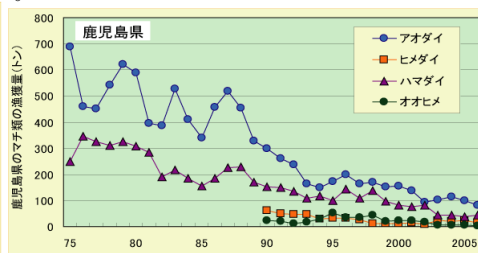
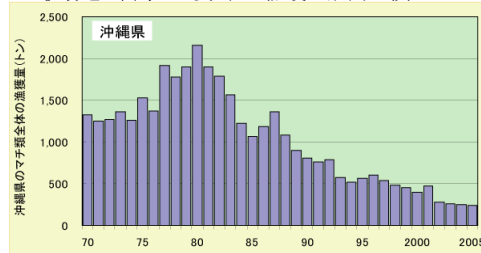


漁業の特徴

水深100m以深の深海底魚一本釣りによる漁獲が多いが、延縄でも漁獲される。周年操業する漁業者が多いが、ソデイカ漁(漁期11～4月)との兼業も行われている。1航海当たりの操業日数は5トン未満の小型船で日帰り、または2～3日。5トン以上の船で1週間程度。

漁獲の動向

沖縄県におけるマチ類全体の漁獲は、1980年に2,159トンの最高値を記録した。しかしその後の5年間に急速に減少した。最近5年間の主要4種の漁獲の動向は横ばいである。

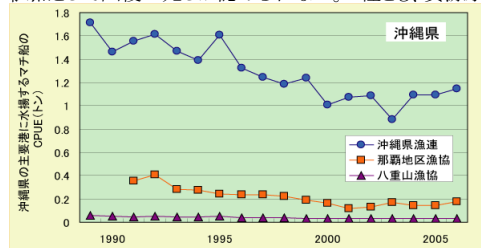


資源評価法

鹿児島県については鹿児島市中央卸売市場年報の取扱量を漁獲量と見なし、経年変化から資源水準と動向を判断した。沖縄県についても各地区漁協および県漁連市場での水揚げ記録を集計し、漁獲量のデータに基づいて資源評価を行った。また沖縄県の主要港に水揚する一本釣り船のCPUEの変動も参考にした。

資源状態

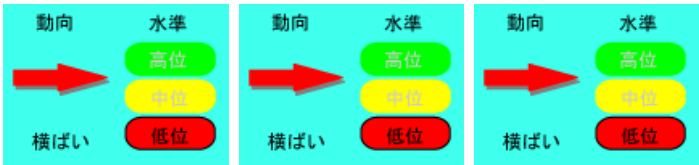
沖縄県におけるマチ類全体の漁獲量水準は、ここ40年間に大きく減少した。この間のマチ類に対する漁獲努力量が大きく変化していないと仮定すると、マチ類の資源量は大幅に減少したと推定される。沖縄県と鹿児島県における4種の漁獲の動向、及び沖縄県の主要港に水揚する一本釣り船のCPUEの変動傾向はほぼ一致しており、過去10年～40年間に減少した後、最近の5年間の動向はほぼ横ばいの状態にある。減少傾向に歯止めがかけられたとも見られるが、依然として回復の兆しが認められない。4種とも、資源水準は低位であり、動向は横ばいと判断される。



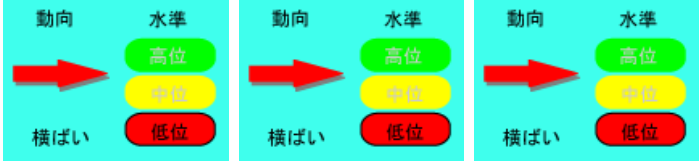
アオダイ

ヒメダイ

オオヒメ(沖縄県)



ハマダイ(沖縄県) オオヒメ(鹿児島県) ハマダイ(鹿児島県)



管理方策

マチ類は平成15年度に水産庁の進める資源回復計画の対象種に指定され、2005年4月に計画が公表された。一本釣り(及び底立延縄)漁業の対象種として資源を管理し増大させるためには、小型魚の保護が必要である。再生産に加わる個体数の増加と、産卵量と加入量を増大させるために、休漁区を設定して周年あるいは一時期の漁獲を停止することが有効と思われる。

資源評価のまとめ

- 沖縄県と鹿児島県におけるマチ類主要4種の漁獲量は横ばい
- アオダイ、ヒメダイ、オオヒメ、ハマダイの4種とも資源水準は低位、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 資源水準の回復のためには漁獲努力量の削減が必要
- 水産庁では2005年4月に資源回復計画を公表済み
- 保護区の設定により産卵親魚が確保され、卵稚仔が広域に拡散することによって資源量の増大が期待される

資源評価は毎年更新されます。